



懐かしくて新しい、

1枚の紙から膨らむ楽しさ

日本に古くから伝わる遊び、折り紙。紙さえあればいつでもどこでも楽しめる遊びとして親しまれ、ほとんどの人が楽しんだことがあると思います。そんな私たちにとっては懐かしい折り紙の教室が市内で開催されています。今回はその教室に密着、楽しい風景をご紹介します。



この夏、甲南図書交流館はオープン5周年を迎え、バーズデーイベントが行われました。夏休み中の3日間、様々な催し物があり、多数の方が来場されました。その中の一つに「折り紙マスターになろう」というイベントがあり、参加しました。

折り紙と聞くと、「かぶと」であったり、「つる」であったり、折り上げたら完成、と思いがちではないでしょうか。ところが、折り紙も進化していて、いろんなアイデアで折り上げてから楽しめるものもあります。この日はとても盛り上がった折り紙教室となりました。

講師として、水口図書館の



▶できあがった折り紙で遊ぶ親子

上中館長がお越しで、何種類もの折り紙を教えていただきました。

例えば、4回長方形に折るだけで、ふわっと飛んで行く筒型の折り紙。指一本でくるんと一回転させるアクロバットホース。私と同じテーブルで3歳の男の子が挑戦していましたが、彼も上手に作る事ができました。定番の紙ひこうきもとても遠くまでスーッと飛んで、参加者からは大歓声が上がっていました。

上中館長は、仕事に就かれてから、図書館に来られる子どもたちとのコミュニケーションのため始められたそうです。今では大きな作品も作っております。甲南図書交流館



▲熱心に説明を聞く参加者の皆さん

にも置いてあります。

もっと静かに折り紙を折る教室だと思っていました。が、いい意味で期待を裏切られ、とても楽しい時間を過ごしました。参加した子どもたちからも、楽しい、おもしろいといった声が聞かれました。

1枚の紙からいろいろなものが作り出せる折り紙。しかし全く同じものは2度と作ることはできません。懐かしさと同時に奥深い新しい魅力に気付かされた気がしました。

折り紙教室は市内の図書館などで開かれているそうです。機会があれば参加されてみてはいかがでしょうか。